

## 第一次世界大戦と生物社会学主義の破綻・修正

— 1910年代・アメリカにおける《精神薄弱と非行》をめぐる  
保護・教育問題に対する科学の対応を中心として —

1971

藤井カ夫

1970年度・名古屋大学大学院教育学研究科修士論文 / 審査委員：江藤基二、結城睦郎、広岡亮藏、古木弘通、堀内 守 / (名古屋大学教育学部図書館蔵)

### 構成

- 
- I. 「特殊教育」の個別科学としての独立性を獲得するに至ったところの条件の分析の必要について
- A. 現代「特殊教育」論における生物・社会学主義
  - B. 現代「特殊教育学」の歴史的系譜 — <児童学> とのかかわりから
  - C. 「特殊教育学」としての<科学的世界>を獲得するに至った時点におけるその条件の方法論的吟味
- II. 1910年代・アメリカにおける<精神薄弱と非行>をめぐる科学の認識構成
- Henry Herbert Goddard (1866.8.14-1957.6.18)を中心として
  - 1. アルフレッド・ビネーからヘンリー・H・ゴッダードへ
    - A. 20世紀初頭20年間における「精神薄弱」問題への科学の接近方法の2つの特徴について
    - B. フランスにおいてアルフレッド・ビネーによって知能検査が創始されたその必然性について
    - C. フランスからアメリカへアメリカにおける知能検査の改訂・標準化の着手とその特徴について
  - 2. ヘンリー・H・ゴッダードによる「白痴・痴愚・魯鈍」の3つの階層づけとその問題点
    - A. ヴァインランド改訂版と「白痴・痴愚・魯鈍」の3つの階層づけの試み
    - B. 「魯鈍」の段階(M.A.8~12歳)の「精神薄弱」の発見と定義づけ — ヴァインランド訓練学校における「精神薄弱」への知能検査の適用と作業能力の観察結果から
    - C. 知能検査による「精神薄弱」の判別基準の確立と言語の認識能力からの判別の試み(ex. Howe, S.G.)の捨象
  - 3. 家系調査研究からの<精神薄弱=非行>の理論づけとその社会的警醒
    - A. 家系調査研究からの「精神薄弱」の原因追求の開始 — 「社会病理」現象の露呈と優生学運動の高揚のもとで
    - B. 方法におけるメンデルイズムの適用とその帰結 — 「単純性精神薄弱」の発見と<精神薄弱=非行=被救恤的窮民>としての問題自覚
    - C. “隔離より断種を!”としての社会的警醒
  - 4. 陸軍テストにおける“意外な新事実”の発見とその階級性
    - A. 個人検査から集団検査の開発へ、その軍事的要請
    - B. 陸軍テストにおける“意外な新事実”の発見 — 国民の約半数が「魯鈍」の階級の人々、“精神年齢平均13歳でデモクラシーは成立するか”
    - C. 「特殊教育」の制度としての確立とその付与条件をめぐる、<福祉と教育>の機能における亀裂の必然性について

結びにかえて、ヘンリー・H・ゴッダードにおける認識構成の特質と今後の研究課題について

付録：ヘンリー・H・ゴッダード文献目録ならびに解題

---